

肺癌末期透析患者のリビングウィルに沿った看取りを経験して

佐久間佳織 寺本 紹美 小林亜由美
 佐藤真由美 大野呂和栄 小井 正美
 岡 良成 高津 成子 宮崎 雅史
 幸町記念病院 看護部

平尾佐江子 西村 里見
 秦 佳子 松田 浩明

I はじめに

最後まで自分らしく生きることを望んだ肺癌末期透析患者の、入院から看取りまでの全経過約一年間のリビング・ウィルに沿った関わりを報告する。

II 患者紹介

60歳代 女性 独居
 親族：高齢で県外にいるため疎遠
 キーパーソン：同じアパートに住む友人夫婦
 原疾患：腎硬化症

平成21年CAPD導入。平成24年5月両肺癌認め、両肺部分切除術施行。その後HDへ移行。低酸素血症のため在宅酸素療法導入。12月右肺癌再発・筋転移認め化学療法施行（平成25年5月まで化学療法施行）。平成25年5月右下葉肺炎・急性呼吸不全と診断、大学病院にて入院加療。6月全身管理目的にて当院入院となる。

III 経過

当院入院時から看取りまでの全経過を第1期から第4期とする。(図1)

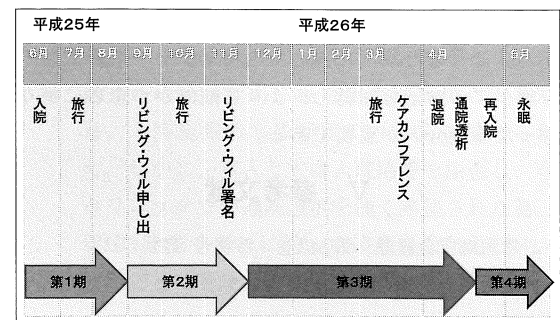


図1 入院から看取りまでの経過

【第1期】

鎮痛処置にて苦痛がコントロール出来ており、ADLも比較的自立していた。(図2)

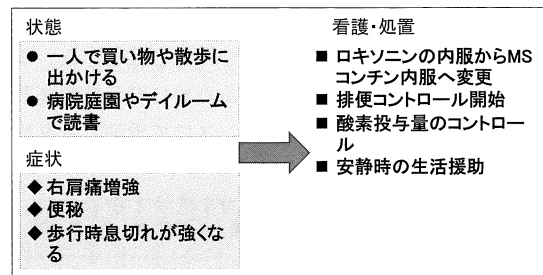


図2 第1期 鎮痛処置にて苦痛がコントロールできていた期間

【第2期】

身体的苦痛が増強する一方で、自分らしい生き方を望み、気分がいい時に患者は季節の病院行事や腎友会の旅行に参加していた。

様々な症状の出現、ADLの低下が見られ、今まで出来ていたことが徐々にできなくなることへの不安やこれから予想される経過とそれに伴う苦痛への不安があり、平成25年9月初旬患者よりリビング・ウィルの申し出があった。(図3)

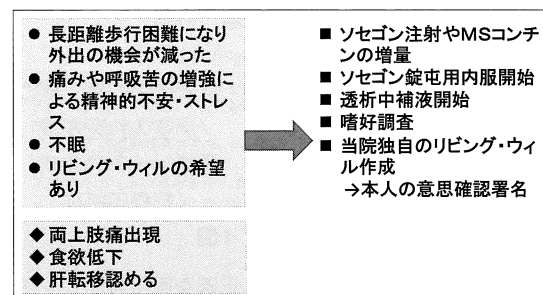


図3 第2期 リビング・ウィルの希望から署名までの期間

平成25年11月5日

医師と看護師、患者本人と意思を確認しながらリビング・ウィルを作成した。

今後たどるであろう経過・症状を説明しながら、1項目ずつ希望する・希望しないを確認し、即決出来ない場合は保留とした。患者は、痛いこと苦しいことは嫌だと強く訴え、最後まで自分らしく、自然に逆らわずに生きることを希望した。(図4)

- 意識が無くなった場合は透析を行なわない
- 容態急変時、人工呼吸・心肺蘇生はしない
- 強心剤の投与については保留
- 食事が十分に食べられなくなった時、中心静脈栄養、経管栄養は希望しない
- 麻薬での持続鎮痛剤投与・輸血は希望する

図4 患者が望んだリビング・ウィル

【第3期】

患者は限りある時間で生前整理をしておきたいと退院を希望、平成26年3月18日退院に向けたケアカンファレンスを開催し、4月12日患者は退院の日を迎えた。(図5)

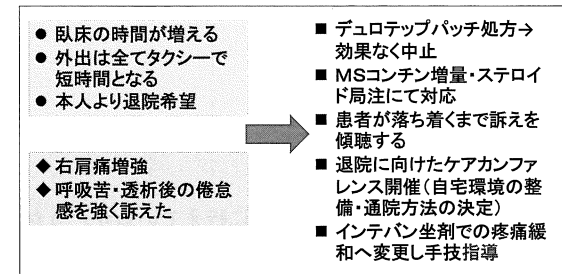


図5 第3期 リビング・ウィル署名から退院まで

【第4期】

患者は退院後、ケアカンファレンスで決めた様々な社会的資源を利用しながら在宅で過ごしたが、平成26年4月20日退院から8日間で呼吸困難と食欲不振にて再入院となった。様々な苦痛に対して対症療法を中心に看護した。状態が悪化してきたため本人にリビング・ウィルの再確認を行い、変更はしなかった。

再入院より19日目の5月8日亡くなる直前まで会話をしていたが、本人の希望したリビング・ウィルに沿って、疼痛・苦痛の緩和を行い、キーパーソンである友人に見守られながら静かに息を引き取った。死後の手続きは全てこの友人に託されており、患者の闘病生活において、大きな支えになっていたと考える。(図6)

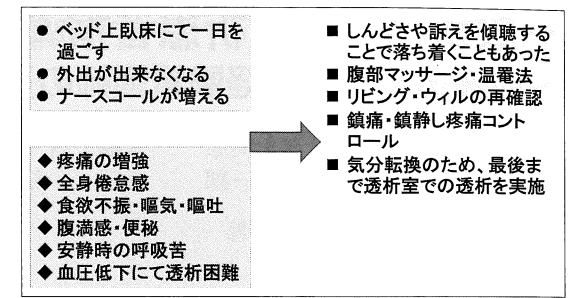


図6 第4期 再入院から亡くなるまでの期間

IV 考察

身体的症状の緩和を図ることで、精神的に安定し外出や旅行などの楽しみを見つけ、実現することができたのではないかと考える。

リビング・ウィルを確認したことで本人の意思が明らかになり、スタッフ間での看護の統一が図れたのではないかと考える。患者自身が終末期をどう過ごしたいか、本人が納得いく形で終焉を迎えられるように、患者にその都度病状説明しリビング・ウィルを確認することが重要と考える。

V まとめ

リビング・ウィルの準備から看取りまでを経験した肺癌末期透析患者の一例を報告した。

患者の望む終焉を迎えられるよう統一した看護支援を行うためにリビング・ウィルを確認できたことは意義があったと考える。

VI 参考文献

- 照林社 がん看護の実践 監修 松浦正子
- 日本評論社 透析医療とターミナルケア 編 杉澤秀博 太平整爾 西三郎
- メディカ出版 透析ケア2014年11月透析患者のエンド・オブ・ライフケア
- 日本メディカルセンター 臨床透析 2009年9月 終末期にある透析患者への対応